



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1302	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕問いを設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（20%） G1 状況把握(10%） F1 探究と論拠(10%） F2 課題解決(10%） K1 ライティング・コミュニケーション(10%） K2 オーラル・コミュニケーション(10%） L1 チームワーク(20%） M1 統合的・応用的学修(10%）		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基盤となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関する研究方法、調査手法などを確立するために、その学術的方法論の検討と指導を行います。授業形態は演習により行います。 授業形式は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（ライブ配信型）を取り入れます。 （キーワード）個人研究の方法、学術研究、研究論文		

授業の趣旨	■副題 自律的な研究を始めるために ■授業の目的 論文がどのようなものであるかについては、ゼミナールⅠで十分に理解されているので、各自が論文を執筆するために、どのように研究と取り組む必要があるのかという次のステップに学びましょう。 ■授業のポイント 研究における「問い」の立て方、具体的な研究の進め方などについて指導を行い、実際に簡単な論文のスケッチを描いてもらうことを目指しています。	
総合到達目標	【一般目標】 研究能力の向上を図るため、研究の意義・目的、研究の方法についての自覚的な態度を促し、研究テーマの設定方法について修得する。 【個別行動目標】 ■学問としての「問い」を立てることができ、その答えを学術的に導くことができる。（第1回～7回） ■社会問題に対して、法学的な観点から分析し、説明することができる。（第8回～15回） ■社会的な事象について、危機管理の観点から課題を発見することができる。（第8回～15回） ■社会的な課題に対して、解決を導くための方法について説明することができる。（第8回～15回）	
成績評価方法	■発表（25%）：適用ルーブリック E1・F1・F2・H1・H2・K2・M1 （評価の観点）テーマに関する適切な理解と問題解決への合理的な手順が踏まれているかという観点を中心に評価します。 （フィードバック方法）発表者に報告草稿の提出を求め、是正すべき点などについて指摘します。 ■ディスカッションへの参加度（25%）：適用ルーブリック E1・G1・H1・H2・K2・L1・M1 （評価の観点）主体的・積極的にコミットし、協働して問題の解決を図るという姿勢について判定します。 （フィードバック方法）授業の最後にコメントします。 ■論文概要をまとめたレポート（50%）：適用ルーブリック E1・F1・F2・H1・H2・K1・M1 （評価の観点）問題の設定、方法論、論証・検証方法、論理性を中心に、しっかりと表現されているかどうかという観点から、評価を行います。 （フィードバック方法）提出後に、目を通して、問題点を指摘したうえで各自に返却します。	
履修条件	特になし	
履修上の注意点	報告者が発表するテーマについて、他のメンバーも事前学習を行い、積極的・主体的に課題と取り組み、活発なディスカッションによる有意義な学修成果を獲得できるように努める。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 自律的な研究に向けて（1） ②授業概要 研究を始める端緒ないし契機は、純粋な興味や関心に発することが多い。しかし、これだけでは未だ研究に至りません。研究へと向かうためには、興味や関心のレベルから、学術的な「問い」へと進化させる必要があります。知的な探究心にしたがって、「なぜ」「どうして」という疑問と向き合いながら、自分自身が「何を」知りたいのかを、まず明確にしなければなりません。「問い」を提起するために、どうすればよいのかを考えることから始めましょう。 受講者は、自分の関心対象の中から、研究対象となり得る「問い」を発見し、この問題に研究として取り組むことができるようになる（G1・F1・F2・M1）。 ③予習（120分） 興味や関心をもっている領域・テーマについて、「なぜ」そう思っているのか、そしてどのような点に課題・問題があると認識しているのかを検討し、授業で報告する。 ④復習（120分） 興味や関心をもっているテーマについて、どのような「問い」が存在し得るのか、各自分析する。
	2	①授業テーマ 自律的な研究に向けて（2） ②授業概要 「問い」が成立したら、「答え」を求めなければなりません。「答え」を導く手法、

	研究のアプローチについて考えてみましょう。 受講者は、問いに対する答えを導くために、問い自体の性質に基づいた相応しい答えの求め方を学び、自ら実践することができるようになる（G1・F1・F2・M1）。 ③予習（120分） 「問い」がどのような性格をもっているのかを検討し、その答え（結論あるいは仮説）を求めるために、どのような方法が相応しいのか考え、授業で報告する。 ④復習（120分） 「問い」の性格を的確に認識し、先行研究を参照しながら、どのような方法によって仮説を提示するのかについて検討する。
3	①授業テーマ 自律的な研究に向けて（3） ②授業概要 研究において重要なのは、客観性のある証拠に依拠した知見であったり、ほかの見解と比較してより優越する合理性や根拠が明示され、説得性の高い見解を提示することです。どのようにすれば、合理性を認め得る結論（仮説）を引き出すことができるのかという点について検討しましょう。 受講者は、論拠に基づいた合理的な結論を導いたり、仮説をデータに基づいて検証する方法を学び、自ら実践できるようになる（G1・F1・F2・M1）。 ③予習（120分） 各自、研究の参考となる論文を選択し、どのような研究手法が取られ、どのような論証・検証を経て、結論に至っているのかを分析する。 ④復習（120分） 自分の研究テーマについて、研究方法を検討する。
4	①授業テーマ 問題の設定について（1） ②授業概要 「問い」が適切に設定されているかどうかを中心に、ディスカッションを行いながら、検討します。 受講者は、適切な問題の提起が行われているかどうかを相互に客観的に分析し、自らの問いが研究の対象として妥当かどうかについて、適切に評価できるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、研究テーマについて、何を問うのか、的確に分析したうえ、説明できるようにする。 ④復習（120分） 「問い」の立て方について、再検討する。
5	①授業テーマ 問題の設定について（2） ②授業概要 「問い」が適切に設定されているかどうかを中心に、ディスカッションを行いながら、検討します。 受講者は、適切な問題の提起が行われているかどうかを相互に客観的に分析し、自らの問いが研究の対象として妥当かどうかについて、適切に評価できるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、研究テーマについて、何を問うのか、的確に分析したうえ、説明できるようにする。 ④復習（120分） 「問い」の立て方について、再検討する。
6	①授業テーマ 問題の設定について（3） ②授業概要 「問い」が適切に設定されているかどうかを中心に、ディスカッションを行いながら、検討します。 受講者は、適切な問題の提起が行われているかどうかを相互に客観的に分析し、自らの問いが研究の対象として妥当かどうかについて、適切に評価できるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、研究テーマについて、何を問うのか、的確に分析したうえ、説明できるようにする。 ④復習（120分） 「問い」の立て方について、再検討する。

7	①授業テーマ 問題の設定について（４） ②授業概要 「問い」が適切に設定されているかどうかをを中心に、ディスカッションを行いながら、検討します。 受講者は、適切な問題の提起が行われているかどうかを相互に客観的に分析し、自らの問いが研究の対象として妥当かどうかについて、適切に評価できるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自、研究テーマについて、何を問うのか、的確に分析したうえ、説明できるようにする。 ④復習（120分） 「問い」の立て方について、再検討する。
8	①授業テーマ 研究のアプローチ（１） ②授業概要 各自の研究テーマに沿って、研究のアプローチの在り方について検討します。 受講者は、研究のアプローチの適切さについて、他の意見を参照しながら、自ら批判的・客観的に検証することができるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自の研究テーマに関して、どのような研究の手法が適切かについて検討し、発表する。 ④復習（120分） 研究の手法について、再検討する。
9	①授業テーマ 研究のアプローチ（２） ②授業概要 各自の研究テーマに沿って、研究のアプローチの在り方について検討します。 受講者は、研究のアプローチの適切さについて、他の意見を参照しながら、自ら批判的・客観的に検証することができるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自の研究テーマに関して、どのような研究の手法が適切かについて検討し、発表する。 ④復習（120分） 研究の手法について、再検討する。
10	①授業テーマ 研究のアプローチ（３） ②授業概要 各自の研究テーマに沿って、研究のアプローチの在り方について検討します。 受講者は、研究のアプローチの適切さについて、他の意見を参照しながら、自ら批判的・客観的に検証することができるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自の研究テーマに関して、どのような研究の手法が適切かについて検討し、発表する。 ④復習（120分） 研究の手法について、再検討する。
11	①授業テーマ 研究のアプローチ（４） ②授業概要 各自の研究テーマに沿って、研究のアプローチの在り方について検討します。 受講者は、研究のアプローチの適切さについて、他の意見を参照しながら、自ら批判的・客観的に検証することができるようになる（E1・G1・F1・F2・L1・M1）。 ③予習（120分） 各自の研究テーマに関して、どのような研究の手法が適切かについて検討し、発表する。 ④復習（120分） 研究の手法について、再検討する。
12	①授業テーマ 論文の書き方（１） ②授業概要 論文の書き方について、一般的な説明と指導を行います。 受講者は、論文の書き方を学び、自ら研究論文のレベルに相応しい表現力を身に付け

		ることができるようになる (K1) 。 ③予習 (120分) 各自、研究テーマについて、構成と概要をまとめ、発表する。 ④復習 (120分) 構成と概要について、再検討する。
	13	①授業テーマ 論文の書き方 (2) ②授業概要 論文の書き方について、一般的な説明と指導を行います。 受講者は、論文の書き方を学び、自ら研究論文のレベルに相応しい表現力を身に付けることができるようになる (K1) 。 ③予習 (120分) 各自、研究テーマについて、構成と概要をまとめ、発表する。 ④復習 (120分) 構成と概要について、再検討する。
	14	①授業テーマ 論文の書き方 (3) ②授業概要 論文の書き方について、一般的な説明と指導を行います。 受講者は、論文の書き方を学び、自ら研究論文のレベルに相応しい表現力を身に付けることができるようになる (K1) 。 ③予習 (120分) 各自、研究テーマについて、構成と概要をまとめ、発表する。 ④復習 (120分) 構成と概要について、再検討する。
	15	①授業テーマ 論文の書き方 (4) ②授業概要 論文の書き方について、一般的な説明と指導を行います。 受講者は、論文の書き方を学び、自ら研究論文のレベルに相応しい表現力を身に付けることができるようになる (K1) 。 ③予習 (120分) 各自、研究テーマについて、構成と概要をまとめ、発表する。 ④復習 (120分) 構成と概要について、再検討する。
関連科目		「危機管理基礎演習 I (RMGT2601)」、「ゼミナール I・Ⅲ・Ⅳ (RMGT4601・4603・4604)」
教科書		特に指定しません。
参考書・参考URL		外山滋比古『思考の整理学』 (ちくま文庫・1986年)
連絡先・オフィスアワー		■連絡先 開講時に、告知します。 ■オフィスアワー 金曜1限。
研究比率		■危機管理領域との対応 災害マネジメント20% : パブリックセキュリティ40% : グローバルセキュリティ20% : 情報セキュリティ20% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学40% : 法学60%

